

令和7年度第2回長浜市公共施設マネジメント推進委員会 会議要点録

- 1 日 時 令和8年3月2日（月）14：15～16：15
- 2 場 所 長浜市役所5階 5-B会議室
- 3 出席者 ○委員（9人）  
遠藤委員長、横山副委員長、轟委員、若岡委員、市川委員、  
杉江委員、藤田委員、平井委員、川崎委員  
○事務局（6人）  
内藤総務部長、清水財政課長  
財政課財産活用政策室  
中村室長、松井係長、的場主査、山田主事  
○長寿推進課（3人）  
河瀬課長、星野課長代理、堤内係長  
○防災危機管理課（2人）  
野村次長、涌井課長代理  
○政策デザイン課（2人）  
岸田課長代理、山崎係長

4 欠席者 田中委員

5 傍聴者 2人

- 6 開 会
- ・定足数の確認
  - ・資料の確認
  - ・会議の公開についての確認

7 議 題

- (1) 長浜市高齢者福祉施設個別施設計画の策定について（経過報告）
- ・資料2に基づき説明
- (2) 長浜市消防水利維持方針の策定について（経過報告）
- ・資料3に基づき説明
- (3) 長浜市総合計画基本構想（素案）について
- ・資料4に基づき説明

■質疑応答・意見交換

- (1) 長浜市高齢者福祉施設個別施設計画の策定について（経過報告）  
（説明：長寿推進課 河瀬課長）
- ・資料2に基づき説明

（委員）

民間のデイサービス事業所は新規参入、撤退の増減が多く、不安定な面がある。そのため、公設の施設は最後の砦としての役割はある。特定エリアに利用者が集中すると施設の経年劣

化が早まるので、送迎の工夫やエリアへの分散誘導を今のうちに検討することを含め、施設の統合や廃止の議論をしてほしい。

(長寿推進課)

人材不足は介護業界全体の課題として認識している。今年度実施した市内介護事業所向けアンケートの速報では、7割の事業所が現状維持または拡充と回答されており、一定の安心はしている。びわ地域では令和3年度に公設デイサービスを廃止したが、民間事業所が問題なく対応しており、稼働率も過度に高くないことを確認している。

(委員)

7月に提示される個別施設計画は、各施設の統廃合など具体的な内容が含まれるのか。また、この委員会はどのような判断をする立場になるのか確認したい。

(長寿推進課)

公共施設等総合管理計画において、高齢者福祉施設の全体の方向性は示されている。個別施設計画では、一つ一つの施設についてどうしていくのかを具体的に記載することになる。委員には、個別施設計画が公共施設等総合管理計画に沿ったものであるかを確認いただきたい。

(委員)

65歳以上のピークアウトを根拠に分析しているが、65～75歳の前期高齢者はまだ非常に元気でアクティブな方が多い。実際に介護ニーズが高まるのは75歳以降であり、75歳を基準とした分析も検討されたい。

北部地域のように民間事業所が少ないエリアでは公共が最後の担い手となる必要がある。施設や敷地を一度廃止すると元に戻すことは非常に困難である。公共施設として維持していく場合、送迎可能範囲である半径5kmを考慮したうえで、ボトムライン（最低水準）も決めておく必要がある。

貸館については、同様の役割を持つ公民館等と調整をしていくことは必要である。

(長寿推進課)

実際にデイサービスの利用者は高齢の方である。85歳になると約半数が要支援・要介護認定を受けている現状を考慮していく。セーフティネットについては、余呉エリアでは公設デイサービスが1か所のみで、指定管理者は継続意思を持っているが、地域の特性として一人暮らし高齢者が多く、在宅支援の限界も課題となっている。施設サービスへの移行も考える必要がある。ただ、今後は利用者の少ないエリアに大きな規模の施設が必要なのかという話はあるので、他市の事例も参考にしながら丁寧に説明をして進めていきたい。

(委員)

入所型や訪問型等のサービス形態として、地域毎にどうしていくのかという議論は高齢者保健福祉審議会でもされるのか。

(長寿推進課)

サービス料の議論をしていただく中で、サービス形態についても議論されることになる。

(委員)

北部地域は独居の方が多くて安否確認している状況になっている。そのような状況の中で、社会福祉協議会として介護保険を使って高齢者の方の生活水準下げないことを一番のポイントにしているが、経営面の部分もあり、ギリギリのところ公の施設の指定管理を受けるかの判断をしている。

(委員)

大きな施設で多くのサービスを提供できなくても、入浴サービスや他のサービスのみを提供するような小さな施設を組み合わせで維持していく方法も検討することはできる。

■質疑応答・意見交換

(2) 長浜市消防水利維持方針の策定について(経過報告)

(説明:防災危機管理課 野村次長)

・資料3に基づき説明

(委員)

公共施設等総合管理計画の対象として、消防車庫(屯所)は今回の個別施設計画の対象にはならないのか。

(防災危機管理課)

令和6年4月に消防団の再編を実施しており、市内には33か所の屯所・車庫があるが、施設類型ごとの個別施設計画としては策定できていない。人口減少、消防団のさらなる再編、施設の老朽化を見据えて、本計画とは別になるが計画的な整備が必要と認識している。

(委員)

人口が減少しているにもかかわらず、同規模の消防水利施設を維持し続けることは困難であるため考えていく必要がある。消防団の再編と施設の再配置を連動させつつ、人口メッシュ、人口濃度に応じた見直しが一般的である。

(防災危機管理課)

消防水利施設は、水道企業団が優先順位をつけ実施する老朽管の布設替えを進める中で、水道の水質確保と合わせてダウンサイジングが図れていくと考えている。

(防災危機管理課)

人口が減少に対応することが持続可能な地域になることであるが、まずは水利基準を満たしていない箇所を充足率を引き上げ、将来的に人口分布に見合ったダウンサイジングを考える。

(委員)

高齢者による火災リスクや空き家火災を踏まえると、ダウンサイジングは難しい課題であるが、その中でいかに消防水利施設を維持していくかを考えていかなければならない。

(委員)

地域性もあるが河川やプールなど自然水利等を併用する水利の供給方法の可能性もある。

■質疑応答・意見交換

(3) 長浜市総合計画基本構想(素案)について

(説明:政策デザイン課 岸田課長代理)

・資料4に基づき説明

(委員)

「開かれたシビックプライド」という文言について、日常生活で使われない言葉であり、市内外どちらに向けた発信なのかによって文言の捉え方が変わってくる。「プライド」はポジティブにもネガティブにも受け取られる言葉であり、説明なしには伝わりにくい。

(政策デザイン課)

総合計画審議会の委員からも同様の指摘を受けており、説明すれば理解されるが、説明なしには伝わりにくい状況である。長期スローガンとして将来的に定着させていく方向で発信するのか、子どもから高齢の方まで幅広い世代にわかりやすい日本語で表現するかについて、現在議論中である。

(委員)

市民向けの計画として、カタカナや専門用語が多く文章がわかりにくいので、市民の目線でわかりやすい表現への整理が必要。

(政策デザイン課)

文章の中身を改めて確認し、伝わりやすくなるよう精査していく。

(委員)

「雇用や就労する機会の充実」の満足度について、基準値 2.91、目標値 3.50 という数値の意味や算出方法が資料を見ただけではわからない。また、「長浜市にこれからも住みたい」と「転入者数」の成果指標が同じところに並んでいることへの違和感がある。住みたい意向と転入者数は別の話であり、転出者数との関係も示さなければ示したいものが何か見えない

(政策デザイン課)

ご意見を受け、中身を検討していく。  
大学進学時に転出した若者がどれだけUターンするかが長浜市の課題であり、転出超過をどう解消するかも今後考えていく。

(委員)

郷土愛の育む計画として住んでいる者の立場に立ち、高校生レベルを想定したわかりやすい表現でまとめた計画を策定してほしい。

(委員)

基本構想のみを策定し、個別の分野別計画に委ねる構成について、各分野別計画との整合・連携が図られなければ実効性がなくなるので、進捗を確認する方法の検討も必要である。

(政策デザイン課)

運用の部分はこれからになる。策定段階においては、各分野別計画の審議会に出向いて説明し、意見を聴取し反映する形をとっている。分野別計画の更新タイミングで基本構想の内容が反映、実行されるよう、担当課も含めて連携の仕組みを検討していく。

(委員長)

それでは、時間となりましたので、本日の議事を終了させていただきます。

## 8 閉 会